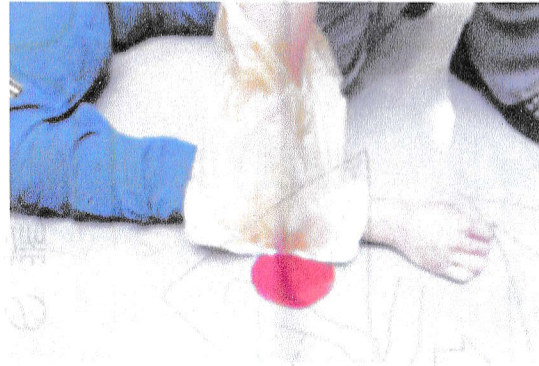
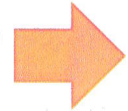
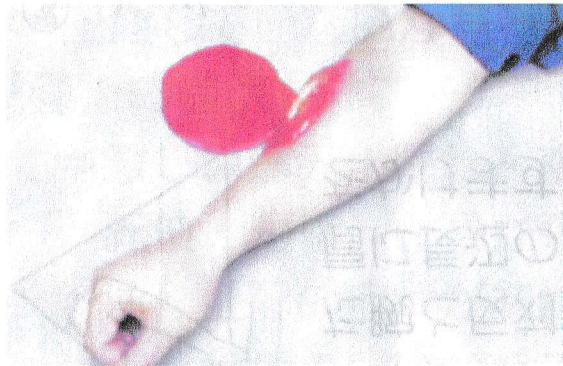


直接圧迫止血法

一般に体の血液の**20%**（60Kgの体重の男性で約1リットル）が急激に失われると危険な状態になります。そのため、出血の量が多いほど、止血手当を迅速に行う必要があります。大出血の止血方法としては、出血部位を直接圧迫する直接圧迫止血法が基本です。



清潔なハンカチやタオルなどを重ねて出血しているところを完全におおうように傷口にあて、その上から手で直接圧迫します。

ポイント

👉 傷口を確実に圧迫しましょう。ずれていると出血は止まりにくくなります。

- 出血の量が多く、片手で圧迫しても出血がおさまらない場合には、両手でより強く圧迫します。
- 血液を介してウィルスに感染することがあります。
- じかに血液にふれないようにビニール・ゴム手袋を利用する（スーパーの袋でもよい）。

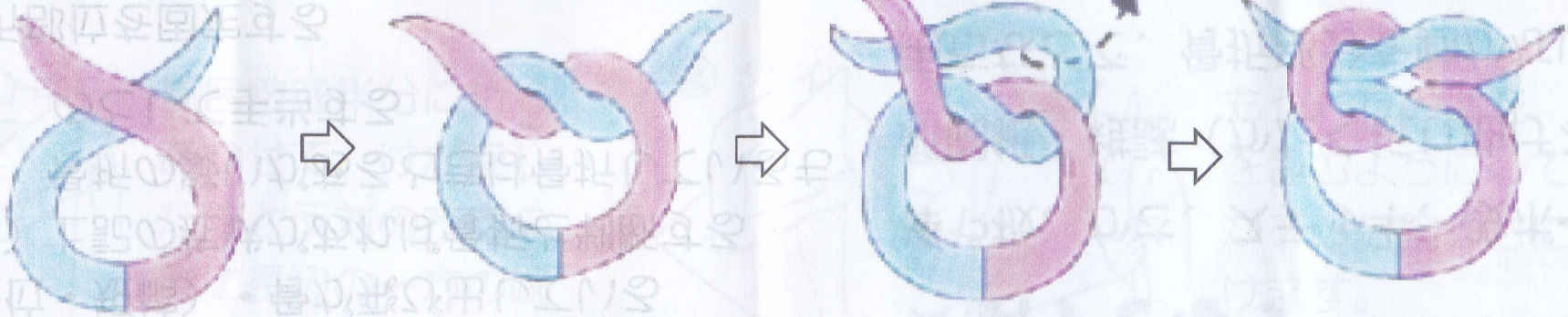


キズの手当ては、**1.出血を止める（止血）、2.細菌の侵入を防ぐ（清潔）、3.痛みをやわらげる（動かさない）、**という3つのことを意識しながら行いましょう。

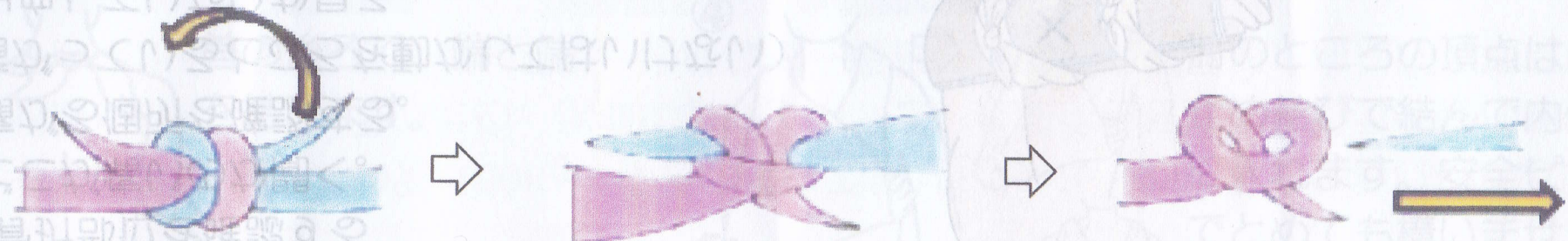
結び方（本結び）

- 傷を覆ったり固定したりするときは、端をしっかり結ばないと不意にほどけてしまったりして危険です。
- 「本結び」は、しっかり結べるが必要な時には簡単にほどくことができます。

結ぶ時



ほどく時



骨折の固定

1. 骨折部位を確認する

- どこが痛いのか聞く。
- 痛がる個所を確認する。
(痛がっているところを動かしてはいけない)
- 出血していないか見る。

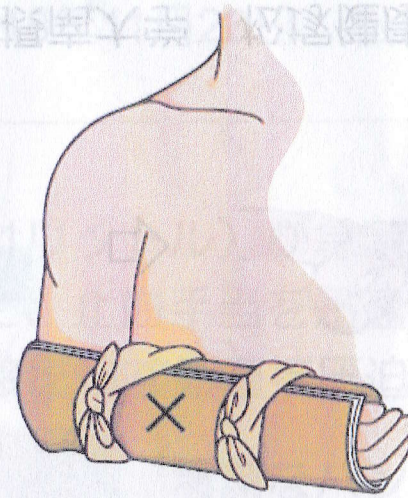
「骨折の症状」

⇒ 激しい痛み・腫れ・変形（腫脹・回旋・屈曲
転位・短縮）・骨が飛び出している

注) 上記の症状があれば骨折と判断する
骨折の疑いがあるときは骨折しているものとして手当する

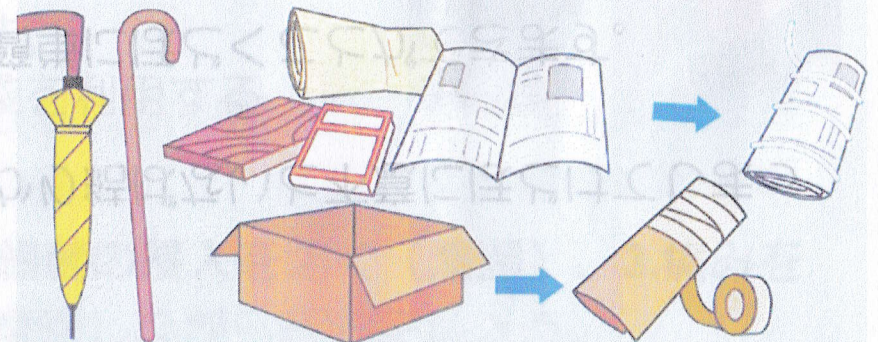
2. 骨折部位を固定する

- 協力者がいる時は、骨折しているところを支えてもらう。傷病者ができれば支えてもらう。
- 副子を当てる。
- 骨折箇所を三角巾などで固定する。
- 副子は骨折箇所の上下の関節が固定できる長さのものを準備する。



★副子とは？

棒や板、かさ、ステッキ、段ボール、
新聞紙・雑誌（かたく折り曲げる）、
毛布などで、骨折部分を動かないように固定できるもの。



ケガした腕を吊る方法

傷が大きかったり骨折したりした場合は、痛みが強いです。動かすとより痛くなったり、状態が悪くなったりすることがあります。大きなけがの部分はできるだけ動かさないように固定しましょう。

今回は腕を吊る方法として、風呂敷を使います。スーパーのビニール袋、前開きのパーカーやカーディガンなどでも固定できます。

